

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 (財)埼玉県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

不況の影響で失業者が急増する中、単純労働に従事している外国人は解雇されやすい立場にあり、日本語を覚え、景気に影響されにくい技術や資格を身につけることが重要となってきている。また、介護の現場は人手不足の状態にあり、やる気のある職員が求められている。

そこで、失業中の外国人を対象に、介護の基礎や介護現場に必要な日本語を学ぶ講座を開催することで、外国人住民の介護職への就職を支援する。

当講座では、日本語教室だけではなく実習も行い、即戦力となる人材の育成を目指す。そのため、介護施設を持ち、ヘルパー養成講座も実施しているさいたまコープと連携して実施する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
6月10日 (水) 14:00~ 16:00	(さいたまコープ)永野 諭、本多 史子 (日本語講師)芳賀 洋子、福井 史子 (外国人アドバイザー)大谷 エリザベチ (コーディネーター)伊藤 結花 (協会)星野 敦志事務局長、山下 貴央事業課長		運営委員会議事録参照
8月12日 (水) 14:00~ 16:00	(さいたまコープ)永野 諭、本多 史子 (日本語講師)芳賀 洋子、福井 史子 (外国人アドバイザー)大谷 エリザベチ (コーディネーター)伊藤 結花 (協会)山下 貴央事業課長		
10月21日 (水) 14:00~ 16:00	(さいたまコープ)永野 諭、本多 史子 (日本語講師)芳賀 洋子、福井 史子 (外国人アドバイザー)大谷 エリザベチ (コーディネーター)伊藤 結花		

(協会)星野 敦志事務局長、山下 貴央事業課長

【写真】



3 日本語教室の開催について

① 日本語教室の名称

「介護の仕事に役立つ日本語教室」

② 開催場所

講座:さいたまコープ・コーププラザ浦和

(埼玉県さいたま市南区南本町2-10-10)

実習:さいたまコープ・ふれあい介護センター浦和

(埼玉県さいたま市浦和区上木崎7-6-7 コープ上木崎店内)

③ 学習目標

(1) 介護の仕事について、理解を深める。

(2) ヘルパー2級の資格を取得する際に、講義や実習の内容を理解できる程度の基礎知識と日本語を身につける。

(3) 介護施設で仕事を始める際に、職場で話されている言葉が分かる程度の基礎知識と日本語を身につける。

④ 使用した教材・リソース

介護講師、日本語講師がオリジナル教材を作成(別紙参照)

⑤ 受講者の募集方法(ちらし添付)

- ・ 当協会ホームページ、メールマガジン、情報紙に掲載する。
- ・ 市町村国際担当課にちらしを送付する。
- ・ さいたまコープに広報を依頼する。
- ・ ハローワークにちらしを置く。
- ・ 日本語教室などの、県内NGOに通知する。

⑥ 受講者の総数 20 人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 36 時間 (全 12 回) ※別途、実習5時間

⑧日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	8月19日 (水)	3時間	20人	ペルー・スペイン語(8人) ブラジル・ポルトガル語(4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(2人) チベット(中国)・チベット語(1人) ポリビア・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人)	教授者3人 補助者1人	オリエンテーション、施設見学(デイケアセンター)
②	8月21日 (金)	3時間	15人	ペルー・スペイン語(6人) ブラジル・ポルトガル語(3人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(1人) チベット(中国)・チベット語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人)	教授者3人	高齢者疑似体験
③	8月24日 (月)	3時間	20人	ペルー・スペイン語(8人) ブラジル・ポルトガル語(4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(2人) チベット(中国)・チ	教授者3人	食事介助①

				ベトナム語 (1人) ボリビア・スペイン語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人) タイ・タイ語 (1人)		
④	8月26日 (水)	3時間	19人	ペルー・スペイン語 (7人) ブラジル・ポルトガル語 (4人) 韓国・韓国語 (2人) 中国・中国語 (2人) チベット (中国)・チベット語 (1人) ボリビア・スペイン語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人) タイ・タイ語 (1人)	教授者2人 補助者1人	食事介助②
⑤	8月28日 (金)	3時間	19人	ペルー・スペイン語 (8人) ブラジル・ポルトガル語 (4人) 韓国・韓国語 (2人) 中国・中国語 (1人) チベット (中国)・チベット語 (1人) ボリビア・スペイン語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人) タイ・タイ語 (1人)	教授者2人	衣類着脱介助 ①
⑥	8月31日 (月)	3時間	20人	ペルー・スペイン語 (8人) ブラジル・ポルトガル語 (4人)	教授者2人	衣類着脱介助 ②

				韓国・韓国語（2人） 中国・中国語（2人） チベット（中国）・チベット語（1人） ポリビア・スペイン語（1人） フィリピン・タガログ語（1人） タイ・タイ語（1人）		
⑦	9月2日 （水）	3時間	18人	ペルー・スペイン語（6人） ブラジル・ポルトガル語（4人） 韓国・韓国語（2人） 中国・中国語（2人） チベット（中国）・チベット語（1人） ポリビア・スペイン語（1人） フィリピン・タガログ語（1人） タイ・タイ語（1人）	教授者2人 補助者1人	[日本語復習]
⑧	9月4日 （金）	3時間	19人	ペルー・スペイン語（7人） ブラジル・ポルトガル語（4人） 韓国・韓国語（2人） 中国・中国語（2人） チベット（中国）・チベット語（1人） ポリビア・スペイン語（1人） フィリピン・タガログ語（1人） タイ・タイ語（1人）	教授者2人 補助者1人	認知症について講習
⑨	9月7日	3時間	16人	ペルー・スペイン語	教授者2人	歩行介助（車い

	(月)			(6人) ブラジル・ポルトガル語(4人) 韓国・韓国語(1人) 中国・中国語(1人) チベット(中国)・チベット語(1人) ポリビア・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人)	補助者1人	す歩行)
⑩	9月9日 (水)	3時間	18人	ペルー・スペイン語(7人) ブラジル・ポルトガル語(4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(1人) チベット(中国)・チベット語(1人) ポリビア・スペイン語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人)	教授者2人 補助者1人	歩行介助(杖歩行)
⑪	9月11日 (金)	3時間	17人	ペルー・スペイン語(7人) ブラジル・ポルトガル語(4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(1人) チベット(中国)・チベット語(1人) フィリピン・タガログ語(1人) タイ・タイ語(1人)	教授者2人	歩行介助(視覚障害者)

⑫	9月14日 (月)	3時間	17人	ペルー・スペイン語 (7人) ブラジル・ポルトガル語 (4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(1人) チベット(中国)・チベット語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人) タイ・タイ語(1人)	教授者2人	[日本語復習]
	9月15日 (火)～ 10月7日 (水)	5時間	19人	ペルー・スペイン語 (7人) ブラジル・ポルトガル語 (4人) 韓国・韓国語(2人) 中国・中国語(2人) チベット(中国)・チベット語 (1人) ボリビア・スペイン語 (1人) フィリピン・タガログ語 (1人) タイ・タイ語(1人)		実習(さいたま コープ デイ ケアセンター)

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

8月24日(月)

13:00～14:30 [介護講義]

・食事介助の方法説明

(14:30～14:40 休憩)

14:40～15:10 [介護講義]

・食事介助の方法をビデオで確認



15:10~16:10 [日本語講義]

16:10~17:00 [日本語補習]

8月24日(月)

13:00~13:50 [介護講義]

・食事介助復習

13:50~14:15 [日本語講義]

・食事介助質疑応答
・専門用語の確認

14:15~14:30 [介護講義]

・口腔ケアについて



(14:30~14:40 休憩)

14:40~15:20 [食事介助実演]

・体にマヒがあると想定し、ヘルパー役と利用者役に分かれて食事介助を実演

15:20~15:35 [日本語講義]

15:35~16:30 [口腔ケア実演]

・顔にテープを貼ってマヒの状態を作り、ヘルパー役と利用者役に分かれて口腔ケアを実演

16:30~18:00 [日本語補習]

9月7日(月)

13:00~13:10 [日本語講義]

・歩行介助で使う言葉

13:10~14:10 [介護講義]

・車いすを使った歩行介助について



・車いすの使い方

14:10~14:30 [日本語講義]

・質疑応答

14:30~15:20 [車いす実演]

・ヘルパー役と利用者役(片手・片足マヒ)に分かれて車いす介助の実演

(15:20~15:30 休憩)

15:30~15:45 [介護講義]

・ビデオで車いす介助の復習

15:45~15:55 [振り返り]

・「車いす介助で注意すること」について意見を出し合う

15:55~16:20 [日本語講義]

・歩行介助で使う言葉の復習、呼びかけ



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
大谷 エリザベチ	ポルトガル語 (ブラジル)	20年	6回	補助者[通訳]

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
本多 史子	さいたまコープヘルパー養成講座講師、介護施設職員	ケアマネジャー	10回	講師 [介護]
福井 史子	日本語学校教師、ヘルパー養成学校日本語教師、高校日本語指導員	日本語教師	8回	講師 [日本語]
芳賀 洋子	日本語学校教師、さいたま市日本語指導員、日本語教室「地球っ子クラブ2	日本語教師	9回	講師 [日本語]

	000」開催、「多文化子育ての会」 コーディネーター、元病院勤務			
--	-------------------------------------	--	--	--

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

受講者にしっかりと知識を身につけてもらうため、ヘルパー養成講座で講師をしているケアマネージャーと、介護知識のあるプロの日本語教師に講師を頼み、実際に介護事業を行っているさいたまコープにアドバイスをもらいながら事業を行っていった。そのため、予想以上に受講者の理解度が高く、個人差はあるが、「介護の仕事で役立つ知識と日本語の力を身につける」という当初の目標は十分達成できたと思われる。

また、介護の仕事に就くには、知識だけではなく、どういった心構えで仕事に当たるべきかということを理解してもらうことが重要になる。受講者が提出してくれた感想文には「(介護の仕事をするには)相手の気持ちを考えて、理解しなければならない。相手にどれだけ楽しく過ごしてもらうことができるかがポイントだと思うので、相手を嫌な気持ちにさせないように、笑顔が一番だと思いました。」「ヘルパーの笑顔と誠実な態度で、利用者さんは生きがいを感じます。」とあり、講義と実習を通して、心構えは十分に伝えることができたのではないかと思う。

② 学習者の習得状況

学習者は、申込みのあった31名の中から、日本語での授業についてこれる程度の日本語力があり、介護の仕事に就きたいという熱意のある人を、面接と簡単な筆記試験で20名選考した。

内容については、①で述べたように、介護の仕事がどういったものかについては理解してもらえたものと思う。

具体的な講義内容(介助の方法など)については、介護についての講義と、それをフォローするための日本語の講義を交互に行い、できるだけ模擬演習を多く取り入れて実施したため、理解しやすかったのではないかと思う。もともとの日本語のレベルに差があるため講座の理解度を一律に判断することはできないが、車いすの実習などをした際も、注意された点(段差の上り方など)によく気を配っており、高齢者役への日本語での声掛けもしっかり行っていた。受講者は講座のない日に集まって復習をしたり、家に帰ってから何時間も言葉を調べなおしたりしていたようで、この講座に臨む意気込みを感じることができた。

講座終了後に介護の仕事に就いたり、ヘルパーの資格を得るために勉強をしている人たちからは、「介護の言葉や知識を身につけるのに苦労しているが、講座で学んだことが役に立っている」と言ってもらっている。特に、さいたまコープがぜひ学んだほうがいいとアドバイスをしてくれた認知症についての知識は、高齢者を理解するうえで大変役に立っているようだ。講座終了後すぐに病院勤務が決まり、認知症になった高齢者の介護を担当している人

もいて、講義の内容がしっかりと身につけていることが感じられた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

この講座の目的は、休職中の外国人に介護の資格を取ってもらい、安定した仕事に就けるよう支援するということである。実際に夫婦で失業してしまい、失業保険をもらいながら参加している人もいたが、単に「安定した仕事に就きたい」ということ以上に、「日本で人の役に立つ仕事に就きたい」と思って受講する人が多いことに驚かされた。受講者の感想に「(この講座は)私にとって、人を助けることができる、いい機会だと思いました。新しい言葉や会話の仕方、態度を学ぶのが、とても興味深く楽しみでした。」とあり、外国人が望んでいるのは、単にお金を儲けられる仕事ではなく、人とかかわり、社会の一員として誇りを持てる仕事に就きたいということなのだということを強く感じた。また講座の最終日には、「介護の仕事で頑張れるという自信が持てました。」と言っていた人が多く、日本では単純労働しかできないと思っていた人たちに、頑張れば可能性が開けるという希望を与えられたのではないかと思う。

講座の受講後、すぐに介護の仕事に就いた人は5人おり、仕事をしながらヘルパーの資格を取る勉強をしている人もいる(22年1月現在)。就職活動中の人は他にもおり、ヘルパーの資格を取ってから就職活動をする予定の人もいるため、今後就職者が増える可能性がある。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

介護事業を行っているさいたまコープと連携して事業を行うことができたため、実際に車いすや杖などを使った模擬演習や、デイケアセンターでの実習などを行うことができた。

また広報は県内のハローワークが積極的にちらしの配布を行ってくれたため、実際に求職中の外国人が多く参加し、効果的な事業を行うことができた。

最も大きな成果は、外国出身者も介護の担い手になり得るという認識を広めることができた点にあるだろう。特に、今回の受講者は、母国で薬剤師だったり、介護の勉強をした経験があったりする人が多く、そういった人たちが介護施設を探しに社会福祉協議会に行ったり、実際に老人ホームや病院などで介護職に就いたりすることで、外国人への理解も進み、これからますます就職しやすい環境になっていくのではないかという希望が持てた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

埼玉県の場合、地域によって在住している外国人の出身国や在留目的などが異なるため、どの地域で、どんな人たちを対象にした支援を行うかが重要になってくる。今回はさいたまコープの施設を使用することにしたため県南部地域で実施したが、実際に受講したのは県北部地域に住んでいる日系の人たち(特にペルー人)が多かったため、効果的な求職者支援をするのであれば、日系人集住地域である北部地域での開催が望ましいのだろう。特に工場で派遣労働者として働いている日系人が多い、本庄市や深谷市近辺での開催が効果的ではないかと思われる。

今回はポルトガル語の通訳者にアドバイザーを依頼したが、ブラジル人は4名しか参加せず、それ以外の受講者をフォローしきれなかったため、特定の言語の通訳を用意するよりは、日本語の指導を徹底するのが現実的であるし、実際に就職する際にも、そのほうが役に立つのではないかと思う。また、今回は介護講師と日本語講師がそれぞれテキストを用意したため、介護のテキストが難しすぎるという問題があった。今後実施する際は、介護講師にアドバイスをもらいながら、日本語講師が中心になってテキストを作るほうがいいたろう。

最も大きな問題は、実習受け入れ施設の少なさである。当初はできるだけ多くの施設に協力してもらい、できれば受講者の何名かは実習先に就職できればと考えていたのだが、初めて実施する事業ということもあって、なかなか施設の協力を得られず、実習先はさいたまコープのデイケアセンターのみであった。就職先は受講者それぞれがハローワークや一般公募している施設などに問い合わせ探しているの、そのあたりまでケアできると、より充実した内容になるのではないかと思う。

b. 今後の課題

今後、北部地域に在住する日系人を主な対象にして同様の講座を行う場合、実習先をどこにするかが大きな問題となる。できれば多様な施設で実習を行い、優秀な人がいれば就職できるような体制ができると望ましい。

またテキストも今年の内容をふまえてより分かりやすいものにするため、時間をかけて準備していきたい。

c. 今後の活動予定、展望

就労支援をするのは初めてだったため、連携相手や広報先なども普段とは異なり、右往左往しながら事業を進めていったが、最終的には希望通りの講師をそろえることができ、充実した内容にすることができた。今後は、更に受講者のニーズを探り、満足度の高い支援を行っていければと考えている。

今回の大きな収穫は、集住地域に住む日系人が日本語教室に来たという点である。これまでも北部地域で様々な在住外国人支援を行ってきたが、日系人はあまり日本語教室には参加せず、日本語を学ぼうという意欲が低いのだろうと思っていた。しかし、「介護の仕事をしたい」といった強い動機と、充実したカリキュラムがあれば、南米出身の日系人も熱心に日本語を学ぶのだということが分かった。他の外国人への支援にも共通することだが、ただ日本語を学んで日本のことを理解してくださいね、というのではなく、日本語を学べばこんなメリット(やりがいのある仕事に就ける、地域社会に受け入れてもらえる)があるということを前面に出した支援方法というものもあるのではないかという気づきがあった。そのためには、私たちが彼らとどうやって共生していくのかということ、改めて考えてみる必要がある。

また、県南部地域には、さいたま市周辺だけで4万人近くの外国人がおり、特に川口市は中国人の集住地域となっている(市区町村の外国人登録者数では全国7位)。

この地域には配偶者ビザを持つ人が多いことから、こういった人たちを対象にした就職支援講座を行うことも意義があるのではないかと思う。

いずれにしても、今年度の事業から発展させられることが多く、協会にとっても良い経験となった。

⑥ その他参考資料

- (1)「介護の仕事に役立つ日本語教室」ちらし
- (2)日本経済新聞(平成21年6月17日(水))
- (3)毎日新聞(平成21年6月26日(金))
- (4)埼玉新聞(平成21年9月28日(月))
- (5)フレンドシップニュースNo. 85(協会広報誌)
- (6)さいたまコープふれあい通信Vol. 7

